



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

2024.12.10 Vol.182

三蔵五訓

真理を探究し、道理を实践する。
 豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
 生命を尊重し、自然を畏敬する。
 個性を伸展し、紐帯性を培う。
 未来を志向し、可能性に挑む。



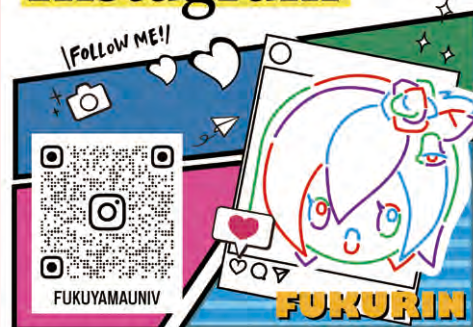
第50回三蔵祭 吹奏楽部

揺るぎなく前進！

| | |
|-------------|----|
| トピックス | 1 |
| 第50回 三蔵祭 | 5 |
| 活躍する教員&学生 | 9 |
| Information | 14 |
| 入試広報室から | 15 |

福山大学 公式

Instagram





来年度より機械システム工学科に海洋機械コースが新設！

2025年4月から機械システム工学科に海洋機械コースを新設し、機械システムコースとの2コース制になります。

機械工学はものづくりの基盤となる学問です。機械システム工学科では、基礎から応用までカバーした多彩な教育や、今後の技術者に求められるデジタル設計に対応した3Dプリンタ等を積極的に活用した実習により、即戦力として活躍できる知識・技能を学ぶ環境を整えており、これまでに多数の技術者を排出してきました。

海洋機械コースでは、海洋機械工学の基礎の確実な修得と実習による知識の定着により、次世代の海事産業の発展に寄与できる人材や、船の知識だけでなく広く機械工学を理解し、エネルギー問題や環境問題に携われ、瀬戸内を含む日本の海事産業を支えてゆく人材の育成を目指します。

現在、海上輸送は、二酸化炭素排出量が航空機・自動車に比べ低く、輸送効率が高いため注目されており、輸送量も増加傾向にあります。さらに、2050年までに二酸化炭素の排出量0を目指した取り組みがなされていま

す。日本の建造船舶は優れた燃費性能と高い技術力を保有しており、二酸化炭素の排出量0への取り組みにおいて世界をリードする立場にあります。

本学の立地している瀬戸内地域は海事産業が集積しておりますので、各企業との連携を通じて実践的な授業を展開する予定です。国立大での長年の研究実績を持つ教員や、造船大手企業での豊富な経験を持つ実務家教員などの充実した教授陣により、本格的な海洋工学・機械工学の知識を習得することができます。また、コンピューターを用いた設計・高精度3Dプリンタを用いた船舶模型製作などの次世代デジタル実習や、造船会社などでの実習・インターンシップ等学外実習など多様なプログラムも充実しています。さらに、海事産業の基礎となる機械分野の資格取得を支援する教育プログラムを通じてスキルアップを図ることも可能です。

新たな挑戦に満ちた学びの場で、皆さんと一緒に未来を築いていけることを楽しみにしています！

機械システム工学科長 加藤 昌彦



4度目の世界制覇ーフリースケートが導いた新たな人生

私はフリースケートという新スポーツを12歳から続けています。現在は普及活動をしながら大会に出場し、過去3回のすべての世界大会でスケートゲーム部門の優勝を果たしました。今年の7月には、中国北京で開催されたフリースケート世界大会に福山大学から出場許可を正式にいただき出場しました。そして、本大会でも優勝でき、世界4連覇を達成しました。

フリースケートを10年近く続ける中で、一つのことを長く続け、満足せずに向上心を持ち続けることの大切さを学びました。フリースケートを始める前は、特に目標もなくだらけた生活をしていましたが、年代の異なるフリースケート仲間たちとの会話を通じて社交性を身につけることができました。正直、フリースケートの存在が私の人生を変えたと言っても過言ではありません。

今後多くの大会に出場しながら、オフシーズンにはイベントパフォーマンスやメディア出演を行い、フリースケートを広めていく予定です。私、山根優希はフリースケートとともにまだまだ成長できると感じています。これからも満足せず、精進を続けてまいります。

ここで、スケートゲームについて簡単に説明します。スケートゲームは、一対一の試合形式

で、交互に技を出し、先に指定回数相手を失敗させた方が勝ちとなります。技の成功率や再現度が高い精度が求められます。

フリースケートは、楽しさと挑戦が詰まった魅力的なスポーツです。興味を持った方は、ぜひ一緒にフリースケートの楽しさを体験し、世界を目指しましょう！

薬学科 3年 山根 優希



2024年度 全日本学生柔道体重別選手権大会 (男子43回) に経済学科3年 福間 尚志さんが2年連続で出場

福山大学学友会柔道部の福間尚志さん(経済学部経済学科3年)が、10月5日に日本武道館で開催された「第43回全日本学生柔道体重別選手権大会」の男子81kg級に2年連続で出場しました。結果は、1回戦において3分03秒に小内刈り一本を取られ、昨年と同じ初戦敗退となりました。「今回

の出場で改めて全国の壁は遥かに高いものだと感じました。去年の屈辱を挽回すべく挑んだものの、全く歯が立ちませんでした。」とのこと。残念な結果でしたが、「この試合で自分の弱さや練習の甘さを改めて知り、これからの練習に気合いが入りました。来年は中四国でも勝ちきって福山大学ここ

にありと思われるよう練習に励んでいきたいと思っています。」と今後の目標を明確にしました。また、ご指導くださっている本学OBの平岡健幸監督は、「前回の大会の反省を生かして、自分から技に入る練習をしていましたが残念でした。今大会の反省点を踏まえ、組み手を意識した練習をしています。柔道の技術の向上だけでなく、周りを引っ張っていける選手になってほしいと思います。」とコメントしています。来年、最上級生となる福間さんの活躍が後進にも刺激となり柔道部のレベルアップにつながるものと思います。今後とも柔道部の応援をお願いします。

学友会柔道部 顧問 鶴崎 健一



弓道部2年女子インカレで上位24名に！

福山大学学生会弓道部の三姓実空さん(経済学科2年)が、「第72回全日本学生弓道選手権大会」に出場しました。

三姓さんは、7月7日の地方予選(遠隔で実施)で、全国大会出場基準をクリアーして、全国大会出場の切符を手に入れました。

8月20日には、三姓さんの活躍を祈念して学生課前にて壮行式も実施されました。

全国大会は、団体戦の部、個人戦の部併せて、8月21日から23日にかけて、グリーンアリーナ神戸にて開催されました。

全国で弓道に励んでいる大学生は、男子が約1600名、女子が約1000名いると言われています。その中から地方予選を突破した学生は、男子207名、女子122名と、まさに全国の「強者(つわもの)」が集う大会でした。



結果は、外したら終わりのサドンデス方式の試合で上位24名に残った所で残念ながら敗退いたしました。

三姓さんは、「程よい緊張感に包まれていたのか調子があったのですが、時間が立つにつれて独特の空気感にのまれ、射型が崩れて外れてしまいました。さらに上へと勝ち上がれず悔しかったですが、貴重な体験ができたので、この経験を糧に日々の練習も頑張りたいと思います。」とのことでした。

残念な結果ではありましたが全国の学生と肩を並べ、「自分の目指すべき所」「足りない所」「参考にすべき所」などの多くの事を学んだ大会になったようです。

今後とも弓道部の応援をお願いします。

学生会弓道部 顧問 片桐 重和



サッカー部卒業生が大学職員となる！

2024年9月より福山大学の就職課に在籍している大坪博和専門員を紹介します。

学生時代は本学でサッカー部に所属し1年次の天皇杯全国大会出場から4年間連続で全国大会出場を果たしました。2002年に卒業後は大塚製薬サッカー部(現:徳島ヴォルティス)に入団し、31歳まで現役を続けてきました。

引退後は、企業等で営業職として活躍しながら、2013年に日本サッカー協会が主催するサッカーの全試合の審判ができる、1級審判員を取得し、現在はJリーグの試合などを担当しています。

入職して3ヶ月が経ちましたが、就職課の専門員として学生

の就活相談や、企業からの求人受理などを担当しています。

その他にも、サッカー部のコーチとして監督の補佐や、Jリーグの審判をするなど、持ち前のチャレンジ力で日本中を飛び回っています。

本人のモットーでもある「笛が鳴るまでプレーを続けること」の大切さを就職活動で壁に当たったり迷っていたりしている学生たちに伝えながら、さらに、今までのサッカーで培ったコーチング力と審判としての判断力を活かし、学生自身が納得できる就職活動になるよう指導しています。

就職課



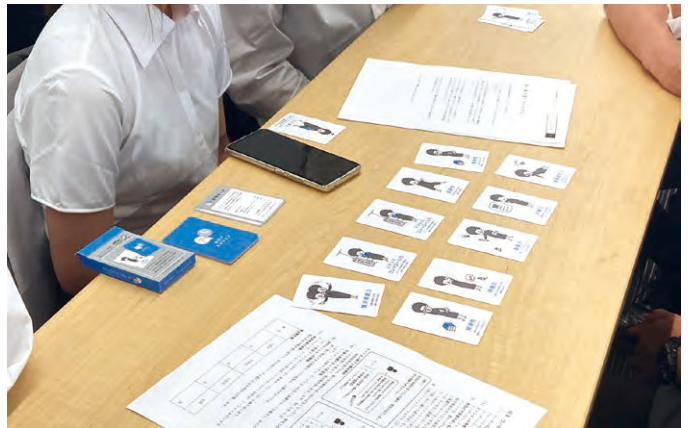
BINGO OPEN インターンシップ2024事前研修を実施

8月7日に未来創造館で開催されたBINGO OPENインターンシップ事前研修には、148名の学生が参加しました。今年度の研修の特徴の一つとして、自分未来創造室が開発したカード型教材「みらいミッション」を使用したグループワークが挙げられます。このグループワークは、キャリアデザインゼミの学生有志7名が開発に協力したもので、インターンシップで起こり得る失敗をテーマに、6人1組で意見交換を行い、問題解決のためのアイデアを出し合います。他のメンバーとの意見交換を通じて、新しい視点を得たり、自分では気づけなかった解決策を見つけたりすることができるため、問題解決能力やコミュニケーションスキルの向上が

期待されます。アンケートでも、多くの学生が「新しい視点を得られた」と前向きな意見を寄せ、グループワークの有益性が確認されました。その他、マナー講座では、インターンシップ先での第一印象を向上させるための基本的な挨拶や身だしなみを学び、研修の最後には、社会人基礎力を踏まえてインターンシップに向けた目標を設定しました。学生たちはこの事前研修を通じて、インターンシップに自信を持って参加するための大きな一歩を踏み出しました。

大学教育センター 講師

キャリア形成支援委員会 副委員長 前田 吉広



令和6年度ダイバーシティ推進SD研修を実施

男女共同参画社会の実現のため、福山大学男女共同参画宣言に基づき設置された「ワークライフ支援室(男女共同参画推進室)」は、昨今の「性認識が多様化している現状」や「本来は男女に限らず国籍、年齢等、様々な多様性をどう包摂して今後に活かすかを考えるべき」等の考え方を踏まえ、令和6年4月1日から「ダイバーシティ推進宣言」を表明するとともに、「ダイバーシティ推進室」へ名称を変更しました。そして、2024年7月10日にダイバーシティ推進の観点から、ダイバーシティに対する意識の啓発及び多様な人を受け入れる環境づくりの一環として、令和6年度ダイバーシ

ティ推進SD研修を開催しました。

講師として第六期・七期文部科学省中央審議会委員を務められ、元広島女学院大学学長で、現在は新しいコンセプトの教育機関「瀬戸内グローバルアカデミー」の代表を務められる長尾ひろみ先生を迎えました。講演は「多様な思考を培うーダイバーシティ時代を生き抜くためにー」をテーマに行われ、全教職員がこれからの大学に求められる要素を考える貴重な機会となりました。

ダイバーシティ推進室 佐々木 伸子



第50回 三蔵祭

第50回 三蔵祭を終えて

今年の第50回三蔵祭には、約6,800名の方にご来場いただきました。特に初日は大雨の中での開催にも関わらず、多くの方が足を運んでくださいました。

この場をお借りしてご来場いただいた皆様、また、三蔵祭の開催を支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

今回の開催にあたり「50回目という節目を飾るにふさわしい三蔵祭に仕上げるには？」と千思万考する日々が続きました。

振り返ると、動き出したのは昨年12月、第49回三蔵祭に関わった学生を中心に役員が決まり、本格的に準備をスタートしました。委員の中には初めて話す学生も多く、最初は学年や学科の枠を超えて活動することに戸惑いを感じました。しかし、約11か月の準備期間を通じて、仲間との絆が深まり、意見の衝突や不安を乗り越えながら一緒に活動を進めました。この経験は、大学生活において何よりも充実した時間

となり、かけがえのない思い出となりました。

記念すべき50回目の三蔵祭テーマ「千紫万紅 ～狂い咲き～」は、学生の個性豊かな姿と、どんな時でも華を咲かせる力強い姿勢を表現し決定しました。委員長として「これまでの三蔵祭の歴史と伝統を引き継ぎ、新たな挑戦と価値を創り出したい」という思いを胸に準備を進めてきました。

三蔵祭当日は、さまざまな困難に直面しましたが、互いに助け合うことで成功を収めることができました。来場者の皆様の笑顔や学生の楽しそうな姿は大きな励みとなり、皆様の温かな応援に支えられ、無事に幕を閉じることができました。

最後になりましたが、今後も60回、70回とますます三蔵祭が発展していくことを祈念するとともに、学生のみならず地域の皆様にも愛される三蔵祭になることを切に願っております。

第50回三蔵祭運営委員会 委員長 西羅 龍斗



経済学部 経済学科 ゼミ一丸となって模擬店運営

経済学科では講義内容・ゼミの活動・研究活動などについてポスター展示を行い、石丸・楠田・高羅・早川ゼミが模擬店を出店しました。

早川ゼミではチュロスを販売しました。価格設定や外装、味の種類などをゼミで何度も話し合いました。チュロスの販売は3年連続ですが、今回は5種類の味で、容器もカップと片手持ち1本を用意し、持ち歩きのための袋の提供など、工夫を凝らしました。1日目は大雨でしたが、2日目は晴天に恵まれ、昼過ぎには完売し追加仕入れに行くほどの盛況ぶりで、MOGITENグランプリで1位になることができました！全員が役割を超えて協力し合い、素早いサービスを心がけた結果だと思えます。チームワークや柔軟な対応の重要性を実感し、とても有意義な三蔵祭となりました。

来年度はぜひ皆さんも出店して三蔵祭を盛り上げていきましょう！
経済学科 3年 和田 優香



人間文化学部 人間文化学科 学科で作る！伝統的な遊びの体験



私たち人間文化学科は、日本の伝統的な縁日をイメージして射的・輪投げ・ヨーヨー釣り・スーパーボールすくい・千本引きを行いました。大人から子どもまで様々な年齢の方々に楽しんでいただけるよう私たちも全力で準備しました。ヨーヨーを作る際に水がかかるといったハプニングはありましたが、みんなで楽しく準備を進めることができました。ヨーヨー釣りとスーパーボールすくいは比較的簡単で子ども達に人気で、反対に射的と輪投げは難易度が高かったため大人の方々にも楽しんでいただけました。実際、帰り際に「楽しかった」という声を多くかけていただけてとても嬉しかったと同時に達成感を得ることができました。二日目には自分たちが思っていた以上の方にお越しいただき、予定よりも早く景品がなくなるほど大盛況でした。

人間文化学科 2年 石原 未来

工学部 情報工学科 初心者向けプログラミング体験と最新技術の紹介活動—三蔵祭での取り組み

今年の三蔵祭では、来場者にプログラミングの魅力を伝えるため、LEDの点灯(Lチカ)をテーマにした体験型ワークショップを開催しました。4色のLEDから好きな色を選び、簡単なプログラミングコードで点灯させることで、初心者の方でも楽しみながらプログラミングの基礎を学べる内容です。私もワークショップの主催者として運営に携わる中で、来場者と一緒にプログラミングを楽しく体験することができました。

さらに、最新のヘッドマウントディスプレイ「Meta Quest 3」を使用し、VRChatを通じたVR体験イベントも実施しました。最新技術に触れていただき、情報という分野に興味を持ってもらう貴重な機会となりました。

多くの来場者との交流を通じて、プログラミングやVRの楽しさを共有できた充実したイベントでした。

情報工学科 3年 伊藤 潤平



生命工学部 健康栄養科学科 **楽しみながら成長できた三蔵祭**



今年の三蔵祭は、1日目に大雨が降る事態になりました。しかし、悪天候の中にもかかわらず、多くのお客さんが来場くださり、両日ともに大盛況の三蔵祭となりました。

健康栄養科学科では、「体験型ゲーム」や「無料のフードサービス」などを企画しました。大学生になって初めて地域の方々と接する活動だったため、最初は、本当に楽しんでいただけののだろうかといった不安な気持ちがありました。しかし、実際に行ってみると、老若男女幅広いお客さんから「勉強になった」「楽しかった!」「もう一度やりたい!」などのお声をいただき、とても嬉しい気持ちになりました。また、チーム活動を通じて自分自身の成長にも繋がったと感じます。

来年も、多くのお客さんに楽しんでもらえるような企画を健康栄養科学科全体で考え、三蔵祭を盛り上げていきたいと思っています。

健康栄養科学科 1年 山崎 瑞歩

薬学部 薬学科 **化学を身近に!**

薬学部化学班はスライム・プラ板作り体験を行いました。当日は予想以上に来場者があり、子供からお年寄りまで多くの方々に体験していただきました。来場者が楽しそうに遊んでくださる様子を見て、化学を身近に感じてもらうことができたのではないかととても嬉しく思っています。

私自身運営に関わるのは初めてで、不慣れなことも多く当日までメンバーとたくさん相談し試行錯誤を重ねてきました。当日になって予想外の事態も起こりましたが、班のメンバーや先輩・先生方など多くの方々のおかげで無事に終えることができました。班の代表として運営に挑戦するという貴重な機会を与えてくださり、最後まで私を支えてくださった皆さんにとっても感謝しています。

来年の三蔵祭も化学班が盛り上げますので楽しみにしてください!

薬学科 3年 野元 優衣



附属図書館 **図書館の魅力を発信するイベントを開催!**



第50回目となる三蔵祭では、例年よりもパワーアップしたイベントを開催しました。「本の紹介カードの作成」「本の帯作成」「EUIクイズ」「蔵書検索クイズ」、そして「全国大学ビブリオバトル2024 中国B・Dブロック地区予選会」を行いました。初の試みとして「和綴ノートを作ろう」と「葉づくり」も実施し、非常に多くの方に参加していただきました。「思っていたよりも簡単に作れた」「昔の人の技術は改めて凄いと感じた」という感想も寄せられ、大成功を収めました。

ビブリオバトルでは、7名の学生による熱い書評合戦が繰り広げられ、高橋知里さん(メディア・映像学科1年)の『変な絵』(雨穴著、双葉社)がチャンプ本に選ばれました。

今回の三蔵祭は、参加者同士の交流を深める貴重な機会となり、図書館の魅力を再確認する場にもなりました。

附属図書館

大学教育センター 大学教育センターの紹介・多言語による演劇上演



大学教育センターでは、大学教育センターを紹介するポスターの展示、体験コーナーとしてカンバッチ作成を実施しました。当日は、小さなお子さんを連れてご家族など多くの方にご来場いただき、大変にぎわいました。ネイティブ教員との英会話も楽しんでいただくことができ、大学教育センターを学内外の方に知っていただく機会となりました。

また昨年に引き続き、Driussi助教の指導による演劇公演も行いました。様々な学科の学生が「ももたろう」「ムーラン」「ハムレット」の3演目を、英語や日本語、その他の言語も取り混ぜながら上演しました。プロジェクタで字幕を映し出し、言葉が分からなくても楽しむことができました。こちらも多くの方にご来場いただきました。本学で取り組む国際化教育の実践をご覧いただけたことと思います。

大学教育センター

国際センター 高校生も留学生も主役！多様な個性が花開く国際センターの企画！

第50回三蔵祭のテーマ「千紫万紅」のもと、国際センターでは地元高校生や留学生の力が結集し、多文化が響き合う場となりました！

初の「備後圏域高校生英語スピーチコンテスト」では、未来の夢を語る高校生たちの熱いスピーチに観客も刺激を受け、グランプリには福山暁の星女子高等学校の羽賀小夏さんと荒木香帆さんが輝きました。

また、留学生が担当する石膏ペインティングコーナーも大盛況！新入生の留学生たちは、日本語での勧誘に挑戦し、ぬいぐるみやコスプレ姿で親しみやすさを発揮し、模擬店を盛り上げました。彼らの笑顔とエネルギーが、参加者の心を掴みました。

さらに、中国古典舞踊の華やかな演出や多言語演劇でも留学生が活躍し、観客を楽しませました。

来年も留学生たちのエネルギーを最大限に活かし、より一

層国際色豊かな祭りを創り上げたいと思います！

国際センター



活躍する教員&学生

柔道を通じて生涯体育・スポーツを楽しむ

2024年1月20日(土)・21日(日)に東京の講道館で行われた、「2024日本ベテランズ国際柔道大会(第18回日本マスターズ柔道大会)」に出場し、講道館護身術の形競技(1月20日)で準優勝、個人試合M3(40歳から44歳)の100キロ級(90キロから100キロ)で優勝の成績を修めました。現在私は本学科で「生涯スポーツ論」を担当しています。そこでは生涯に渡ってスポーツを通じ自身の健康や教養又は人間関係を豊かに育むためには如何にすべきかを考えます。今回の大会は生涯柔道の競技としての側面を担うものであり大会出場と同時に大会の運営も確認してきました。柔道を宗主した嘉納

治五郎師範は、その目的を、「精力善用自他共栄」という言葉で表しました。それは稽古の過程で学んだことを人生に活かすという意味です。この目的こそが生涯体育・スポーツなのだと考えます。人の生きる道を示した柔道というものに若いころは、その時にしかできない関わり方で、歳を重ねればその時々で様々な関わり方があります。その中で自分自身の気づきや他者の理解そういったものを多く体感してきました。引き続き知行合一を目指すため柔道を通じて人生を楽しみたいと思っています。

経済学科 准教授 中村 和裕



2023年度トップ10研修(ニュージーランド)

福山大学経済学部国際経済学科では、成績優秀で英語に熱心な学生を対象に、トップ10研修を実施しています。2023年度も、学生5名・教員1名によるニュージーランド研修を実施しました。海外の現場に直接赴くことで、世界的なエネルギー価格高騰が経済に与えている影響等を見聞しています。研修に先立ち、ニュージーランドからの輸入松と国産杉を福山市内で製材加工している工場を事前見学しました。2月16日(金)～3月3日(日)の16泊17日間で主要3都市を中心に回りました。前半は南島のクライストチャーチに滞在し、リンカーン大学で英語の講義を受講しました。またアカ

ロアを訪問し、エコツーリズムの現場について学びました。その後、首都ウェリントンに移動し、第1次産業省(MPI)にて主要産業である農林水産政策のヒアリングを行いました。最後は経済の中心都市オークランドに滞在し、三菱商事支社、JETRO事務所を訪問し、農産物貿易、アグリビジネスの最前線、政治経済に関するヒアリング等を行いました。学生からは、「ホームステイでは慣れない英語でのコミュニケーションに挑戦し、難しいこともありましたが、素晴らしい思い出になりました」と感想がありました。

国際経済学科 准教授 高山 和夫



「草戸千軒お化け屋敷」を開催しました

心理学科では、広島県立歴史博物館(ふくやま草戸千軒ミュージアム)とのコラボ企画として、「草戸千軒お化け屋敷」を毎年開催しています。

本企画は、博物館の閉館後、復元された草戸千軒の町並みで行われる特別なナイトイベントで、夏休みの毎週土曜日に開催しました。

運営・企画は学生が主体となって行い、今年も57名の学生が参加しました。学生たちは、博物館の学芸員の方のご協力の下、お化け屋敷の企画・運営だけではなく、心理学クイズや歴史体験など、来場者の方が心理学や博物館に親しみを持っていただけるよう、様々な企画を行ってしまし

た。さらに、今年は「茅の輪作り」など、体験型のアクティビティも充実させ、小さなお子様から大人まで、多くの来場者に楽しんでいただきました。

また、心理学の研究のため、心拍数の測定など実験も実施されました。さらに、今年は新たな試みとしてインターネットを通じた広報活動も行い、インスタグラムや特設サイトで準備の様子を発信しました。

学年や役割を超えて連携して1つのことを成し遂げたことは、学生の皆さんにとって大きな財産となったのではないかと思います。

心理学科 講師 向井 智哉



広島県ドローン協会から感謝状をいただきました

メディア・映像学科の学生たちが令和6年2月に府中市で開催された「第四回釈迦院ドローンレース」の映像配信のサポートに参加し、一般社団法人広島県ドローン協会より一連の活動に対して感謝状を授与されました。

映像配信には、メンバーとしてメディア・映像学科の3年生と4年生が携わっています。広島県ドローン協会の技術顧問であり、本学の非常勤講師である岡田秀一先生とともに学長室に一連の活動報告を行ない、大塚学長を通じて感謝状をいただきました。

ドローンレースにはさまざまな形式のものがありますが、今回はお寺の中でのレースの配信サポートを行ないまし

た。この中継に参加したメンバーには、学内でのライブ中継に参加した学生も多く、それらの経験を踏まえて、しっかりと事前準備を行ってきました。学科では、配信に使用する映像や音響機材を「協力」として貸し出しています。

メディア・映像学科では、現代社会において求められる、モノを「作る」ことから、「見せる」こと、そしてメディアを通じて「伝える」ことに力点を置いた教育を行ってきました。今後もそのような視点から、動画配信をはじめ学生が活躍できる機会を作っていきたいと考えています。

メディア・映像学科 講師 岡田 翔



学部の有志メンバーが「Maker Faire Kyoto 2024」に出展しました

2024年4月27(土)28(日)日の2日間、京都でものづくりの祭典「Maker Faire Kyoto 2024」が開催され、工学部と安全安心防災教育研究センターが連携して「福山大学 MAKERS」として出展して大変盛り上がりしました。

電気電子工学科から大学ブランド研究「瀬戸内の里山・里海学」で開発中の「海中ROV」, 「社会知能を持つ群ロボット」, ドローンを使ってサイバー空間内に現実空間を再現する「デジタルツイン」, 情報工学科から器具を付けずに3次元画像が見れる「シン・3次元表示装置」, 服の柄を一瞬で変えることができる「テレポードレッサー」等のLED表示デバイス, 学科横断型授業「みらい工学プロジェクト」で1年生が作成した「自動運転電気自動車」を紹介しました。

一般の観客に加え、他大学等の出展者や、福山出身の多くの方が訪問され、好評をいただきました。また、「Maker

Faire」では美しさやデザイン、ユニークさも大きく評価され、「シン・3次元表示装置」や「テレポードレッサー」は家族で来場された方々にも興味を持っていただけました。

2日間を通じ大盛況の中、本学の存在感をアピールできました。

電気電子工学科 准教授 伍賀 正典



国際学会で大学院生が登壇発表とポスター発表しました

8月27日～30日の日程で、The SICE Festival 2024 with Annual Conference(計測自動制御学会2024年度年次大会)が高知工科大学永国寺キャンパスで開催されました。この国際学会で、大学院工学研究科電子・電気工学専攻の本田義典さんと行平将望さんが発表しました。

二人の発表は8月28日(水)の午後であり、行平さんは Sensors and Transducers のセッションで、“Development and Performance Evaluation of an Optical Tactile Sensor Using Transparent Flexible Resin”(Yukihira, Masami, Goka, Masanori)の演題で登壇発表を、本田さんは Poster2 のセッションで、“Production and Performance Evaluation of

a Monocular Stereo Omnidirectional Camera with Composite Convex Mirror”(Honda, Yoshinori, Murakami, Rikimaru, Goka, Masanori)の演題でポスター発表しました。

本田さんのポスター発表では、研究内容に興味を持つ参加者が足を止め、活発な質疑応答が行われていました。初めての英語発表でしたが、丁寧に説明を行っていました。行平さんも英語での登壇発表は初挑戦でした。練習を積んで臨んだ甲斐があり、発表は無難にやり遂げました。しかしながら、質疑応答は大苦戦でした。ハイレベルな国際学会での英語発表は、貴重な経験になったと思います。

電気電子工学科 教授 香川 直己

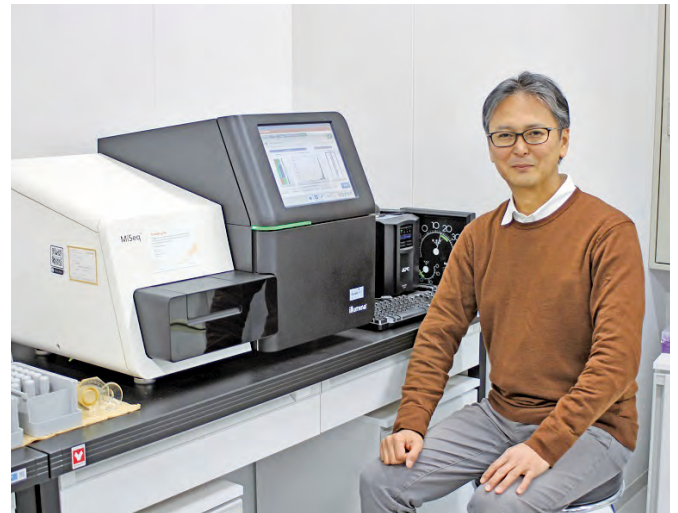


「進化生物学～DNAで学ぶ哺乳類の多様性～」が出版

膜のない生物、子孫を残さない生物、代謝をしない生物がないのと同じように、進化をしない生物はいません。生物とは何かと考えた時に、進化生物学の視点は必要なのです。2024年7月17日に「進化生物学～DNAで学ぶ哺乳類の多様性～(東京大学出版会)」を上梓しました。主に生物学者を志す高校生や学部生を対象とした本です。第1章では、瀬戸内海の島々のアカネズミの進化と古代河川との関係性を、そして第2章では、日本の哺乳類の分布がどのように構築されてきたのかを解説することで、日本列島が哺乳類の多様化に与えた影響を論じました。第3章では、世界に先駆けて解

明したレッサーパンダの系統・分類学的位置づけを、そして第4章では、アザラシやアシカの味覚に関する遺伝子の死を論じ、哺乳類の大進化の面白さを説きました。第5章では、DNAの解読技術をできるだけ平易に解説し、最後に第6章では、自然と共生する社会に向けて、なぜ進化生物学を学ぶ必要があるのか議論しました。DNAや進化の基礎から説明していますので、初心者でも読み切ることができるはずです。表紙の“ゆる～い”哺乳類たちに癒されながら、「こんな面白い学問があるんだなあ」と感じてほしいです。

生物科学科 教授 佐藤 淳



『養殖シロギス：びんごの姫×因島の八朔(ハッサク)のコラボ』～福山大学と廻鮮寿司しまなみが新商品を開発しました～

2015年から着手したシロギス養殖は、学生たちの努力の甲斐あって地元水産商社の(株)クラハシが、沖縄の養殖施設で実証と量産化に取り組んでくださいました。昨年、11月には大量生産された養殖シロギス(びんごの姫：写真左)が東京や大阪などの市場に出荷されたことお知らせしました(学報178号)。今回はそのびんごの姫を使って、地域の魅力を発信できる商品を廻鮮寿司しまなみと開発しましたのでご紹介します。

この発端は、2月に因島キャンパスで地元の中학생に向けて行った、びんごの姫お披露目会でした。参加していただいた、平谷尾道市長から「びんごの姫は因島生まれですが、

ここには八朔というもう一つの特産品があります」と紹介があり、この言葉を受けて廻鮮寿司しまなみの大瀧社長が「その二つをコラボさせて新しい商品を開発したい」と発案されました。とんとん拍子に話は進み、4月には試作された商品(写真右)を福山大学の50名の学生に試食・評価してもらいました。5月には、報道各社に向けてお披露目会も開催しました。これから八朔の季節がやってきます。廻鮮寿司しまなみでは関連商品を提供する予定ですので、ぜひ店舗でご賞味ください。

海洋生物科学科 教授 有瀧 真人

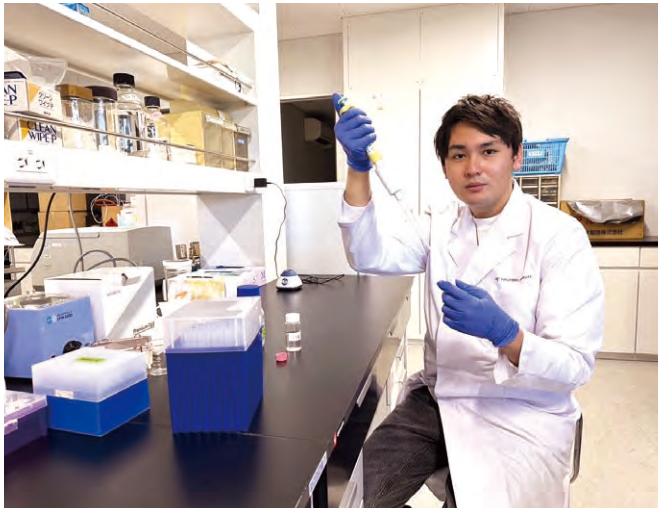


学びが成果に変わり，がん悪液質研究で学生優秀発表賞を受賞

私は、福山大学に入学後、講義を通じてがんに興味を抱くようになり、がんに関する研究を行いたいと感じていました。臨床薬効解析学研究室に配属されてから、がん悪液質の研究に取り組んできました。がん悪液質とは、がんの進行に伴い筋肉量が持続的に減少する状態のことであり、体重減少や食欲不振を伴う疾患です。がん悪液質に有効な治療薬は少ない現状がありますが、新たな治療薬の候補として漢方薬が注目されています。漢方薬は、植物や動物、鉱物など自然にあるものを原料として作られる薬剤です。私は、一部の漢方薬が食欲調節に関わる消化管ホル

モンを介して、がん悪液質における食欲不振を改善することを明らかにしました。その成果が認められ、令和6年3月に横浜市で開催された日本薬学会第144年会にてポスター発表を行い、学生優秀発表賞を受賞することができました。この成果は、自分一人での力では無く、先生方の指導の下、研究室の仲間と励まし合い、切磋琢磨することができたからだと感じています。これからも人との繋がりを大切にし、大学で経験したことを活かしながら、将来薬剤師として活躍していきたいと思っています。

薬学科 6年 中谷 綺人



メッキ廃液から貴金属を回収！カニの甲羅成分で地元企業に貢献

私は現在、大学院でヒドロゲルの合成と応用について研究しています。ヒドロゲルとは、寒天のような水を多く含むやわらかい物質で、幅広い分野、用途で使われています。学部4年生の時は、生物工学科(現生物科学科)の岩本博行教授の研究室で、カニの甲羅に由来するキトサンを含むゲルの貴金属吸着についての研究に取り組み、パラジウム(Pd)をよく吸着することを見つけました。Pdは自動車の触媒などに使われる金属で、世界情勢に左右されて値段が大きく変動し、当時はとても高価でした。そこで、ゲルを用いて工業廃液からPdが回収できないかと考え、地元でめっき加工を行う柿原工業

様を訪ねました。同社では、巨大なタンクから発生するPdを含む廃水をご提供頂き、研究室で色々検討した結果、ゲルでPdを回収することができました。また、キトサンゲルがなぜPdを選択的に吸着するかも卒業研究で明らかにすることができました。修士進学後は大きくテーマを変更したので、それまでの研究が埋もれないようにと研究結果をまとめ、学術論文を書きました。レフェリーとのやり取りの末、学術雑誌に掲載していただくことができ、また、大塚学長から表彰までしていただきました。

工学研究科 生命工学専攻(博士前期課程)2年 谷口 さくら



海外研修参加者へ奨学金を贈呈！

経済学部では、今年度も夏季海外研修として、インドネシア・バリ島研修と韓国・釜山研修を実施しました。研修の実施に先立ち、福山大学経済学部同窓会、福山大学後援会より、参加学生20名に奨学金の支援をいただきました。

奨学金贈呈式は令和6年7月26日(金)に行われ、豊田経済学部同窓会長、後藤後援会長、福山大学大塚学長それぞれから学生への激励の言葉があり、続いて豊田会長、後藤会長から学生へ目録が手渡されました。

参加学生を代表して、まずバリ島研修に参加する国際経済学科1年の森本真愛咲さんから、お礼の言葉と「バリ島で異文化に触れ、現地学生と交流し、多くの事を学んで行きたい」と決意表明がありました。

釜山研修に参加する国際経済学科2年の小林心さんからお礼の言葉と「実りのある研修になるよう責任ある行動をとり、研修後にもご支援をくださった皆様に応えるために、探求心をもってより一層勉学に励みたい」と決意表明がありました。

最後に、楠田経済学部長から、お礼の言葉と学生への激励が述べられ、閉会となりました。

円安と物価高が進み、研修費用も高騰している中、経済学部同窓会、後援会から手厚い支援をいただき、参加学生にとって非常に大きなサポートとなりました。心より御礼申し上げます。

経済学部・人間文化学部事務室



「オープンキャンパス」について

令和6年度のオープンキャンパスは例年通り計画し、オープンキャンパス1を6月22日(土)、オープンキャンパス2を7月20日(土)、オープンキャンパス3を8月18日(日)、オープンキャンパス4を9月7日(土)に実施しました。今年度は、オープンキャンパス1とオープンキャンパス4は午後、オープンキャンパス2とオープンキャンパス3は複数学科を体験できるようアラカルト方式で終日実施しました。

6月22日(土)の1回目のオープンキャンパス1には、249名の高校生、199名の保護者の参加がありました。

7月20日(土)の2回目のオープンキャンパス2は、342名の高校生、259名の保護者の参加がありました。

8月18日(日)の3回目のオープンキャンパス3は、829名の高校生、616名の保護者の参加がありました。

9月7日(土)の4回目のオープンキャンパス4は、172名の高校生、156名の保護者の参加がありました。

令和7年3月15日(土)午後、オープンキャンパス5の実施を予定しています。

当日のタイムスケジュール等については検討中ですが、詳細は福山大学ホームページでご案内させていただきますのでそれまでしばらくお待ちください。

入試広報室



入試広報室から

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を6月3日(月)～7日(金)・20日(木)の計6日間、中国・四国・九州・沖縄の11会場で開催しました。本学会場では大学参観を兼ねた入試説明会を実施し、参加教員の事前希望で各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学社会連携推進センターで両大学の入試説明会を行いました。参加者は、計15県93校102名でした。

◆進学相談会(業者主催)

今年度の業者主催の進学相談会は、各地区で開催され、関西・中国・四国・九州・沖縄の23都市45会場で高校生・保護者・教員の進学相談に応じました。(10月末現在)

◆高等学校生徒・保護者・教員の本学訪問

高等学校の上級学校訪問を積極的に受け入れております。今年度の福山大学への訪問は6校294名でした。(10月末現在)。

令和7年度 一般選抜前期A日程・大学入学共通テスト利用選抜(前期)

| 試験のある学部 | 福山大学 | 福山平成大学 |
|---------|--|------------|
| | 経済・人間文化・工・生命工・薬 | 経営・福祉健康・看護 |
| 出願期間 | 令和7年1月6日(月)～1月24日(金) 消印有効 | |
| 試験日 | 令和7年1月31日(金)～2月3日(月) ※試験日自由選択制 (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。) | |
| 合格発表日 | 令和7年2月7日(金) | |
| 試験地 | 【1/31～2/3】本学・福山(社会連携推進センター)・広島・山口・福岡・岡山 【1/31】鳥取・浜田・宮崎 【2/1】米子・大分 【2/2】静岡・京都・熊本 【2/3】名古屋・神戸・佐賀 【1/31・2/1】東京・大阪・松山・高知・鹿児島・那覇 【2/2・2/3】松江・高松・今治・小倉 | |

令和7年度 一般選抜前期B日程

| 試験のある学部 | 福山大学 | 福山平成大学 |
|---------|---------------------------|------------|
| | 経済・人間文化・工・生命工・薬 | 経営・福祉健康・看護 |
| 出願期間 | 令和7年2月5日(水)～2月17日(月) 消印有効 | |
| 試験日 | 令和7年2月21日(金) | |
| 合格発表日 | 令和7年2月27日(木) | |
| 試験地 | 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・岡山 | |

令和7年度 一般選抜後期日程・大学入学共通テスト利用選抜(後期)

| 試験のある学部 | 福山大学 | 福山平成大学 |
|---------|---|------------|
| | 経済・人間文化・工・生命工・薬 | 経営・福祉健康・看護 |
| 出願期間 | 令和7年2月25日(火)～3月4日(火) 消印有効 | |
| 試験日 | 令和7年3月8日(土) (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。) | |
| 合格発表日 | 令和7年3月12日(水) | |
| 試験地 | 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・福岡・岡山・大阪 | |

◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子女及び兄弟姉妹並びに在学生の兄弟姉妹及び子女に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子女及び兄弟姉妹並びに在学生の兄弟姉妹及び子女とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

◇入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置について◇

福山大学では、地震・豪雨等により災害救助法が適用された地域において被災された方に対して、申請に基づき、本学入学試験受験生に対する入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置を行っております。詳細については、入試広報室までお問い合わせいただくか、ホームページをご確認ください。

編集後記

本年度の三蔵祭初日はあいにくの豪雨に見舞われましたが、多くの方々にご来場いただき、例年にも劣らぬ活気に満ちた学園祭となりました。また、本学の学生たちは学園祭以外の様々な場面でも目覚ましい活躍を見せており、研究の成果発表など学生たちの意欲的な姿勢が随所で光っていますね。本号ではそれらの取り組みの一端をご紹介させていただきました。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<https://www.fukuyama-u.ac.jp>